

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2022年
5月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

今の中学生の状況、ご存知ですか？

～「人間関係作りが苦手」の解答が8割～



先日、定期購読している日本教育新聞を読んでいたら、気になる記事が目飛び込んできました。

『全日本中学校長会調査研究報告書⑤』という、一般には公開していない関係者向けの内部資料なのですが、そこには以下のような内容が掲載されていました。

中学生の心（意識や行動を含む）の変化の表れとして、特徴的だと思うこと

- | | |
|---------------|-------------|
| ・人間関係作りが苦手 | ・ ・ ・ 80.8% |
| ・言葉による自己表現が苦手 | ・ ・ ・ 67.7% |
| ・忍耐力が不足 | ・ ・ ・ 58.4% |
| ・自立心が不足 | ・ ・ ・ 44.5% |
| ・情緒が不安定 | ・ ・ ・ 41.7% |

※基本的には一般公開されていない内部資料のようですが、上記の表は日本教育新聞のHP上に一般の方でも閲覧できる状態で掲載されていたので、今回のMAC NEWSでも取り上げさせて頂きました。

(2021年10月に実施、回答校数551校の調査です)

人間関係が築けない中学生たち

回答数 551 校の 80.8%の生徒指導部の先生は、今の中学生は「人間関係作りが苦手」と回答しています。またそれに次いで「言葉による自己表現が苦手」との回答も多いようです。すなわち、今の中学生は総合的にコミュニケーション能力が乏しいということが言えるのではないのでしょうか。

しかしこれは今始まったことでは無く、約 18 年前の『第 1 回子ども生活実態基本調査 (2004 年／ベネッセ教育研究開発センター)』でも同じような調査結果が出ていたようです。その調査結果によると、

Q1 悩み事を相談できる友達の数はいくつ？

・ いない	・ ・ ・ 14.1%
・ 一人	・ ・ ・ 9.9%
・ 二～三人	・ ・ ・ 41.6%
・ 四～六人	・ ・ ・ 20.4%
・ それ以上	・ ・ ・ 10.3%

Q2 友達との関係は？（性別ごとに集計）

・ いつも一緒にいたい	・ ・ ・ 男子 73.2% 女子 83.3%
・ 仲間で固まっていたい	・ ・ ・ 男子 51.6% 女子 52.0%
・ なかまはずれにされないよう話を合わせる	・ ・ ・ 男子 41.9% 女子 44.6%
・ 話が合わないと不安を感じる	・ ・ ・ 男子 36.6% 女子 45.3%
・ 違う意見を持った人とも仲良くできる	・ ・ ・ 男子 70.9% 女子 71.9%
・ 年齢や性別の違う人と話をするのが楽しい	・ ・ ・ 男子 46.2% 女子 56.0%
・ 友達が悪いことをした時に注意できる	・ ・ ・ 男子 44.5% 女子 54.9%

中学生は悩みを相談できる友達が少ない？

ベネッセの調査は18年前のものなので、今ではこの数値はもっと深刻化しているのではないかと推測されます。これらの調査結果からベネッセは、

『以上のことから、中学生の多くが、人間関係に何らかの悩みや不安を感じていることがわかる。その一因として、一人っ子が多く、きょうだいとのやりとりが少ないことや、地域社会の人間関係が希薄になったことで、異年齢の子どもとの付き合いが減少したり、保護者以外の大人と話す機会が少なくなったりしたことを挙げる声もある。

つまり、今の子どもは、年上や年下の相手との衝突や譲歩、妥協、和解といったことを含む豊かなコミュニケーションを通して社会性を養う体験が少なくなってきたとする意見だ。

そもそも、多くの子どもたちは中学校に入ると、学習量の多さ、授業進度の速さに戸惑いがちだ。それに加え、複数の小学校から生徒が集まるため、子どもたちは進学に伴って人間関係を新たにつくり直すことが求められる。学習面、そして生活面での急激な変化がストレスとなり、いじめ、不登校といった形になって表れることもある。

小学校では、クラス担任制が基本であり、クラス担任とクラスの子ども集団との関係は密接だ。しかし、教科担任制が採られている中学校では、授業ごとに先生が替わることになる。そのため、クラス担任をはじめとする教師と子どもとの関係は小学校のときと比べると相対的に希薄になってしまう。そうした教師と子どもとの関係の変化も、子ども同士の人間関係や社会性などに影響を及ぼしているのかもしれない。』

と結論付けています。

要因は色々あると思いますが、私自身も、特に一人っ子が多い点や、地域社会の人間関係が希薄になった点、異年齢の子どもとの付き合いが減少した点、保護者以外の大人と話す機会が少なくなったりした点は大いに影響しているように感じています。

本来は地域の人も含め、多くの大人の目で子供たちを育てていくのが理想的です。

人間関係作りを苦手になっている他の要因は？

中学生の人間関係作りが苦手なのは、基本的には先述のような人と人との関わりが希薄になったことが大きな要因だと考えていますが、他には「**小学生時の外遊びの減少**」も多いに関わっているように感じます。

ひと昔前の小学生ならば、暇だったら近くの公園に行けば誰かが居て、学年も関係なしにみんなでボール遊びをしたり、鬼ごっこやだるまさんが転んだ・・・などをして一緒に遊んだものです。

学年も違う、最初はそこまで仲が良かったわけではないお友達とのやりとりの中で、「みんなで楽しめる遊び、方法を考える」「上の学年の子が下の学年の子の面倒を見る」「ワガママを言わずに人に合わせる」「順番を守る（待てる）」・・・などなどのコミュニケーション能力、難しい言葉で言えば**人間折衝能力**が自然と身に付いていったのです。

多くの人と一緒に遊ぶのは、面倒くさい面や、我慢しなくてはならない面など、煩わしさもたくさん感じます。しかしそうだからこそ、一人で遊ぶよりもより大きな楽しさも感じられるものなのです。

人間形成の基礎となるこの小学生の、特に低学年～中学年あたりの遊び方の変化が、人間関係作りを苦手になっているのではないのでしょうか？

最近の小学生がほとんどの時間を費やしているゲームは、誰にも気を遣うことなく、煩わしい思いもせずに、一人で気軽にのめり込んで楽しむことができます。ただ、これだと楽しい時間が過ぎていくだけで、人間折衝能力の育成には繋がらないのです。

「最近ゲームもオンラインで友達と一緒にプレイできますよ？」

という意見も聞こえてきそうですが、それはあくまで「同じゲームが好きな仲間同士」という低いハードルの上でのコミュニケーションとなります。公園でばったり会った、学年もやりたいこともバラバラなお友達と一緒に何かをするのとは難易度が全然違ってくるのです。

我が子を「人間関係作りが苦手」にしないためには？

では、我が子を人間折衝能力に長けた子にするためにはどのようなことに気を付ければ良いのでしょうか？

① 子供同士のことには子供に任せて、極力親が出て行って解決しない

→ 公園で遊ぶ際、お友達の家で遊ぶ際など、何かトラブルが起こることはよくあります。そんな時に親が出て行ってその場をうまくまとめるようなことをしてしまうと子供はそれを当てにして、同じ失敗を犯さないようにと自分で考えることをしなくなります。よほどのことは親同士の話になると思いますが、基本的には「子ども同士のごことは、子供同士で」の意識が大事だと思います。

② 極力様々な年代の人との交流の場を用意してあげる

→ これは「言葉による自己表現が苦手」の部分にも繋がってくるのですが、どうしても同級生同士の会話だと「ヤバいわ〜」「ウザいわ〜」「マジで〜」などの雰囲気言葉（専門的には「感情語」と言います）を多用します。これでは自己表現が上手になるはずはありませんので、できる限り様々な年代の方が集まる場に連れていき、感情語ではない言葉で大人の人と話す機会を作ることが重要です。

2018年度の経団連の調査によると、「企業が選考時に重視する要素」は「コミュニケーション能力（82%）」が圧倒的1位だそうです。ちなみに、2位以下は20ポイント以上開いて「主体性（60.7%）」「チャレンジ精神（51.7%）」と続きます。

やはり社会人として企業が新卒の学生に求めるものは人間折衝能力なのです。

当然学校の成績も大事なのですが、長い社会生活で（もちろん日常生活でも）必要となる「コミュニケーション能力（人間折衝能力）」を伸ばすべく、ご家庭でも意識をしてみてください。

まずは手始めに、ご家庭での「会話」を見直してみてくださいね。

みなさんは「国語」得意ですか？

あなたは「国語が苦手」「文章を書くのが苦手」「問題文を読んでも意味がわからない」なんてこと、ありませんか？

国語力を上げるには「他者意識」が大事

あなたは日頃から「ヤバい」を口にしていませんか？最近では嬉しい時も、悲しい時も、暑いときも、寒いときも、どんな感情も「ヤバい」の一言で表現する人が多いですが、それで自分の思いが相手にしっかり伝わっているのでしょうか？

そのような感情語（ヤバいとかウザいなど）は、自分の思いを相手に適切に伝えることができません。そのような話し方をしていると国語力を上げることができないので、国語がどんどん苦手になってしまいます。

国語力を上げるには、どんな年代の人にも伝わるように、日頃からちゃんとした話し方をする必要があります。そのような意識を「他者意識」と言います。その意識を持つことが国語力を上げることに繋がるのです。

国語が苦手な人は、問題集をこなすより、様々な年代の人の会話を聞いたり、コミュニケーションをとる機会を作ってみて下さい。そうすれば自然と国語力が向上しますよ。



偉人の名言

「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番。」

出口 汪 ～現代文のカリスマ予備校講師～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。